

令和二年

年頭のあいさつ

飯南町長 山崎 英樹

あけましておめでとうございます。

令和二年の初春を迎え、町民の皆様にご挨拶を申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年5月1日、天皇陛下の御即位に伴い、新しい時代「令和」が始まりました。新しい時代を切りひらく、希望に満ちあふれた幕開けとなりました。

一方、全国各地で、度重なる台風の襲来や洪水により甚大な被害が発生し、自然の猛威をまざまざと思い知らされた年でした。本町においては、水稲の作柄が例年より不良であったことは残念でしたが、大きな災害がなく、本当にありがたいと思っております。

そうした中で、昨年も小中学校・高校の児童生徒など若者が、さまざまな分野で活躍しました。中でも、頓原中学校吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクールで、初となる中国大会1位、同じく飯南高校吹奏楽部は県大会5年連続金賞を受賞。また、県学童軟式野球大会では、来島ポニーズが第3位という立派な成績を収めました。そして、志津見出身で松江工業高等学校3年生の小野田空羽さんは、茨城国体ボート競技「少年男子シングルスカル」で、見事優勝という快挙を成し遂げました。

その大きな要素のひとつが医療の確保です。

そうしたときに、和田医院、和田勝祥先生には、長年にわたり町民を地域医療の面からお守りいただいておりますが、昨年末をもって閉院されました。和田先生には心より感謝申し上げます。

和田先生のご意思もしっかりと引き継ぎ、本年も角田院長を中心とした飯南病院を核として、皆さんに信頼される医療提供に全力を尽くしてまいります。また、晴雲の里の施設整備や介護施設の担い手確保などに町も共に取り組む一方、健康づくりを進め、保健・医療・福祉・介護が連携して、「安心の暮らし」を二層高めてまいります。

農業においては、評価の高い「飯南米」の生産、園芸ではリースハウスでのトマトやパプリカの生産拡大に加えて、新たに白ネギの生産に取り組み、畜産では新たな技術による優良牛確保を進め、その振興に努めます。林業においては新たな森林管理システムを進め、引き続き本町の山林、木材活用の研究に取り組んでまいります。

そして、農林商工業を担う人材の確保が大きな課題となっておりますが、本年スタートする国の新制度も活用しながら、雇用環境の改善に向けて努力してまいります。

本町の自慢であるしめ縄は、昨年12月に「島根県ふるさと伝統工芸品」に指定されました。「日本の大しめ縄の里 飯南町」を冠に、本年も外国の方を含め、多くの皆さんに本町を訪

こうした、若者

の活躍は、私たち

町民に大きな感動と元気を与え

てくれるものであり、本年も大いに活躍

してくれられることを祈っております。

さて、迎えた本年は、島根県では5月に天皇皇后両陛下をお迎えし、隣の大田市で「全国植樹祭」が、夏には「東京2020オリンピック・パラリンピック」と大きなイベントが開催されます。

本町にとっては、新町誕生15周年という節目の年となり、「笑顔あふれるまち 飯南町」の実現に向けて、「飯南町総合振興計画・後期計画」と第2期目の「総合戦略」に基づくまちづくりがスタートします。

何としても人口減少に歯止めをかけることが、本年も喫緊の課題と考えます。しかし、人口減少への対応は「朝夕」にできるものではなく、また対処的な取り組みも必要ですが、地道に総合的に取り組み続けることが求められます。それには、今飯南町で暮らす皆さんが、生きがいを持って安心して暮らせる、飯南町で暮らすことを幸せと感じられる、そんな「まち」を創ることが大切だと思っております。

れていたできるように飯南町をPRしてまいります。

昨年は、保育料の完全無償化や小中学校へのエアコン設置など、子育て支援や教育環境の充実を図りました。本年は、公営塾「学習支援館」も新しくなります。保小中高貫教育をはじめ、明日の飯南町を担う人材の育成を推進してまいります。

本年は、頓原地区への光ケーブル敷設が完了します。全町でインターネットの飛躍的なスピード化を図り、CATVでの情報伝達も充実させてまいります。

また、来島地区の小さな拠点の中心施設も完成しますが、各地域で進めていただいております「集落実態調査」について、活力ある地域づくりやU・I・ターン者の招致など、掲げられた目標の実現に向けて、行政も共に取り組みを進めてまいります。

本年、それぞれの集落や自治振興組織での地域づくりが大いに前進することを期待しております。

本年も「笑顔あふれるまちづくり」に、そして「住民の皆さんの幸福度向上」に全力で取り組んでまいります。

町民の皆様、変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、町民の皆様の一層のご健康とご多幸をお祈りし、年頭のあいさつとします。

